

第18回

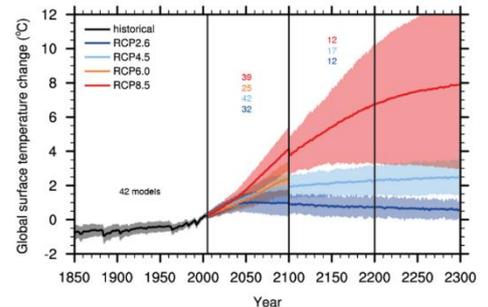
尾瀬 智昭 氏

(気象庁気象研究所・気候研究部)

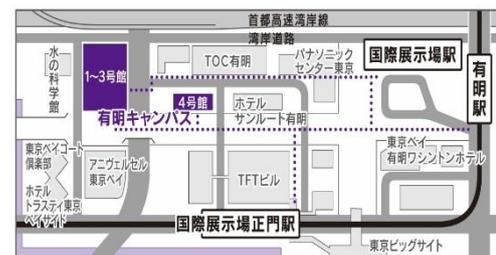
天気予報と気候の予測
—似て非なる予測原理

過去30年間は気候変動予測研究の飛躍の時代であり、気候変動の理解とともに、季節予報や地球温暖化予測が大きく発展した。

気象庁や気象研究所では天気予報の基礎となる大気の数値予報モデルに海洋の数値モデルを組み合わせた気候モデルによって、季節予報を実施し、また今世紀末までの地球温暖化予測を実施している。しかし、これらの気候の予測は、今日から続く半年先や100年先までの毎日の天気予報ではない。天気予報は、大気の流れの中で日本付近に次に来る高低気圧を予測するが、たとえば、季節予報では半年先のエルニーニョ現象の予測が重要であり、地球温暖化予測は、温室効果気体増加後の地球のエネルギー収支で決まる地球の落ち着き先を予測することが重要である。

地球温暖化はこれから本格化？
(IPCC 2013)

りんかい線「国際展示場駅」徒歩7分



1月22日(月) 16:30-18:00

武蔵野大学有明キャンパス, 4号館 3階 303室

事前登録不要・参加無料：どなたでも自由にご参加いただけます。

コーディネーター：西川 哲夫（武蔵野大学工学部数理工学科 教授）

問い合わせ先：武蔵野大学数理工学センター

https://www.musashino-u.ac.jp/research/laboratory/mathematical_engineering/

世界の幸せをカタチにする。

Let's connect. Let's create. Let's share.



Musashino University

